

メロンホモプシス根腐病および黒点根腐病の発生

山本英樹・福田秀樹*・古屋廣光**

(*秋田県病害虫防除所、**秋田県立大学生物資源科学部)

1. ねらい

2008年、秋田県中央部のメロン産地で萎凋症状が問題になった。これらの病原を特定し、防除対策を立てるとともに、指導の資料とする。

2. 試験方法

(1) 病原の特定：持ち込まれた株の症状の観察、遺伝子診断法により病原を特定した。

(2) 発病状況調査：数回にわたりメロン産地(旧3町村)の現地調査、検討会を行った。その際に、現地で見視による観察、聞き取り調査を行った。

3. 結果及び考察

(1) ホモプシス根腐病

1) 病徴

地上部の萎凋症状。地下部は細根の発生が少なく、黒変(偽子座)が認められた。実体顕微鏡下でチェッカーフラッグ様の黒点(疑似微小菌核)が確認された(図1)。

2) 診断

以上の病徴および遺伝子診断の結果(データ省略)から、*Phomopsis sclerotoides*によるホモプシス根腐病と診断した。

ホモプシス根腐病は1983年にキュウリで国内初確認された病害で、病原菌はウリ科作物全般を侵す。2000年に入ってから東北地方の露地キュウリで問題となっており、本県でも侵入を警戒していた。

3) 発生状況

現地調査の結果、ホモプシス根腐病は2町で発生が確認された。2009年には県内のキュウリでも発生が確認され、ウリ科野菜の産地では注意が必要である。

(2) 黒点根腐病

1) 病徴

地上部の萎凋、枯死。根に黒色の小粒が観察された(図2)。また、顕微鏡下で黒色小粒(子のう殻)内に子のう胞子が確認された。

2) 診断

以上の病徴および遺伝子診断の結果(データ省略)から、*Monosporascus cannonballus*による黒点根腐病と診断した。

本病は1983年頃に千葉県のメロンで国内初確認された病害で、全国各地で問題となっている。

3) 発生状況

現地調査の結果、黒点根腐病は2町村で発生が確認された。本病はスイカでも発生を確認しており(2008年)、ウリ科野菜の産地では注意が必要である。

(4) 防除対策

被害株は根も含め早期に抜き取り処分する。これら病害は土壌を介して広がるので、使用した作業機械等は丁寧に洗い、付着した土壌を落とすなど、汚染土壌の拡散防止に努める。

ホモプシス根腐病は太陽熱消毒による防除効果が確認されている。黒点根腐病については太陽熱消毒による防除効果が期待できないので、登録のある農薬(クロルピクリンくん蒸剤等)による土壌消毒が必要である。

4. まとめ

2008年、メロンにおいてホモプシス根腐病と黒点根腐病の発生を本県で初めて確認した。何れも土壌伝染性の難防除病害であるため、今後も発生に注意が必要である。

汚染土壌の拡散に注意し、発病株の早期発見に努め、抜き取り処分を行うと共に太陽熱や薬剤による土壌消毒を行う。



図 1 メロンホモプシス根腐病による地上部の萎凋症状（左）、根の黒変（偽子座）（右上）およびチェッカーフラッグ様の黒点（疑似微小菌核）（右下）



図 2 メロン黒点根腐病による地上部の萎凋症状（左）、根の黒色小粒（子のう殻）（右上）および子のう殻内部（子のう胞子）（右下）

参考文献

門田育生（編）．2008．キュウリホモプシス根腐病防除マニュアル．（独）農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター、福島、39pp.